

欧州獣医外科学会および米国獣医外科学会に参加して

枝村一弥

(日本大学獣医外科学研究室・小動物外科専門医)

2013年7月4～6日にイタリアのローマ市にて開催された第22回欧州獣医外科学会(ECVS)年次大会に参加してきました。会場は、バチカン市国よりもやや郊外に行った Ergife Palace Hotel で行いました。日本からは、約5名の参加者がいました。初日には、ドライラボとワークショップ、そしてレジデントセッションが開催されました。大会第2日目からは、小動物と大動物に会場が別れ、教育講演、一般口演、ポスターセッションが行われました。



軟部外科では、手術感染、内視鏡外科、胸腔鏡、インターベンションラジオロジーなどのテーマで教育講演が行われていました。整形外科では、変性性腰仙椎狭窄症、肘関節形成不全(骨切り術・関節置換術)などのテーマで盛んな議論が行われていました。日本からは、日本大学の浅野和之先生が「CTを基にした肝外性門脈体循環シヤントの解剖学的分類」について口演がありました。ポスターセッションでは、日本大学の私、石垣久美子先生(小動物外科専門医レジデント)、手島健次先生、そしてペンシルバニア大学に留学中であった麻布大学の藤田幸弘先生の発表がありました。



軟部外科16題、整形外科26題の発表から、決勝の口頭発表に各々4題が選出され、みごと藤田幸弘先生が決勝ラウンドに進出しました。日本からは、昨年の私に続き2年連続の決勝進出であり、わが国の臨床研究のレベルの高さが評価されました。ECVSの年次大会では母国語の異なる専門医やレジデントが英語で発表し、議論していました。これは、専門医制度がアジアに根付いたときの参考になると強く感じました。今後も、日本からの参加者が増えることを願っています。

2013年10月23～26日には、米国テキサス州サンアントニオ市の Henry B. Gonzalez Convention Center & San Antonio Rivercenter で開催された米国獣医外科学会 (ACVS) の Surgical Summit に参加しました。欧州獣医外科学会と異なり、米国獣医外科学会は世界一の獣医外科学会と行っても過言ではないかなり大規模な学会でした。10月23日には、ドライラボとワークショップが行われ、大会第2日目から発表が始まりました。



小動物が5会場、大動物が3会場、その他の特別講演が3会場で行われ、いずれの会場も立ち見が出る程の盛況でした。3日目にはレジデントフォーラムが行われ、質の高い発表が多く行われていました。日本人で米国のレジデントコースで学んでいる荒井先生も発表されていきました。軟部外科の教育講演のテーマは、最小侵襲外科、呼吸器外科、消化器外科、循環器外科、創傷管理、高度画像診断、腫瘍外科、合併症など広範囲に渡っていました。整形外科の領域では、脚変形、肘関節形成不全、義足、再生医療、脳外科、頸部外科、前十字靭帯断裂、合併症などといった幅広いテーマで講演がなされていました。本学会では、American College of Veterinary Anesthesia and Analgesia (ACVAA) や American College of Veterinary Sports Medicine and Rehabilitation (ACVSMR) といった関連学会も同時に開催されていました。日本からは、約40名が参加していました。日本大学からは、安川慎二先生(整形



外科)、浅野和之先生(軟部外科)、吉田織江先生(軟部外科)、久楽賢治先生(画像診断)の4題が口演に選ばれ発表を行っていました。また、ジョージア大学の小川先生の発表もありました。ポスターでは、日本大学の浅野和之先生、麻布大学の藤田幸弘先生が発表を行っていました(昨年度未開催分を含む)。このような国際学会で、日本人の発表が増えていることは、大変うれしく思います。今後とも、日本の小動物外科専門医(Diplomate JCVS)が一人でも多く世界に羽ばたいていくことを切に願います。